



住みごこち一番・可児 — 若い世代が住みたいと感じる魅力あるまちの創造

萌え^{いづ}出るとき 新鮮な息吹^{ぶき}で!

春は、名のみの風の寒さや 聞けば急^せかるる胸の思いを
 (早春賦：吉丸一昌作詞より)



人生の教養(e.g.) 武部貴則<横浜市立大教授(31歳)の論より>
 ★バックキャストを！=人生の先々を考え、今何をすべきかを考える事。(目標設定して)
 ★センチピティを！=思わぬ偶然を発見する能力を磨く事。(好奇心を磨く等)

目次

- 春のかがやき 本センター会長 齋藤美智子..... ①
- 特集「人権文化の光彩」(標語・300字小説の入賞作品)と「29年度本センター三大ニュース」..... ②~③
 - 平成29年度 標語(第17回)・300字小説(第10回)
 (解説)・**応募者総数**：3359人(小学生1446人・中高一般1913人)
 (標語：2779点・300字小説：580点)
 ・**入賞作品**：37点(標語30点・300字小説7点)
- コーナー..... ④
 - 心のドア ●可児ぬくもりネットだより ●ぬくもりまゆちゃん²⁴ ●啓発のひかり

- 【国連】**
- ①世界人権宣言採択70周年 (1948・12・10)
 - ②婦人参政権条約65周年 (1953・3・31)
 - ③アパルトヘイト禁止・処罰国際条約採択45周年 (1973・11・30)

今年の人権・ホットメモリー

- 【日本】**
- ①障がい者基本法施行25周年 (1993・12・3)
 - ②高齢者雇用安定法改正20周年(60歳以上定年制義務化)(1998・4・1)
 - ③障がい者雇用促進法改正20周年(当時：1.8%雇用)(1998・7・1)
注意：その後2.0%(現在)・2018(本年)4月より2.2%又3年以内に2.3%になります。(従業員45.5人以上)

春のかがやき 子どもの悩み相談はお早めに! 本センター会長 齋藤美智子

★昨今、子どもへの虐待が多く報道されます。どんな理由があろうとも、自分の意思をもたない無防備な子どもに感情を押しつけようとしても無理があります。

★これは、生活や子どものことでイライラして、一番弱い子どもにぶつけてしまう、ゆがんだ行動であります。大切にされない、愛されない子ほど悲しいことはないのです。

★人生には辛苦は付きものです。そうしたことを乗り切るためには、普段何でも話せる友人をもつことも大切です。

★また早めに専門員のいる公的の「子ども相談センター」等に相談し、気持ちが軽くなるように具体策を話しあうことです。〈電話は、189番〉です!

特集

人権文化の光彩 平成二十九年 度

人権啓発入賞(標語)

第17回

(選考・関係者と他機関の代表による)
2,779作品より選考

【最優秀賞】

「いじめじゃない？」

感じる空気を言おう
津下 あい(小学校六年生)

【優秀賞】

おもいやり

人と人とを むすぶ糸
小久保 妃菜(小学校五年生)

見つけよう

人それぞれの すばらしさ
篠田 煌輝(小学校六年生)

ありがとう、ごめんね、だいじょうぶ

いつも心にやさしい気持ち
板垣 錬(小学校三年生)

ありがとう

次は私が 助ける番
大津 未由侑(中学校二年生)

負けないで

君の悩みは 僕が聴く
佐橋 厚哉(中学校一年生)

【入選】

友達 は 勇気をくれる おっせん団

藤本 春風(小学校五年生)

ありがとう

感謝の一言 大事だね
肥田 葵(小学校六年生)

それちがう

言える勇気が 友救つ
岡島 光希(小学校六年生)

みすてない

あなたの言葉が 心の支え
奥村 柚菜(中学校三年生)

つたえない

かんしゃの気持ち ありがとう
藤田 奈ノ羽(小学校三年生)

自分の目 人のいいところ 見えますか
竹内 優生(小学校六年生)

だいじょうぶ あなたの言葉が 笑顔の始まり
篠田 朋(中学校三年生)

一歩ずつ 自分の速さで いいんだよ
柴田 菜美(中学校三年生)

あいさつは 心をつなぐよ だれでも
西 翠優(小学校四年生)

見てるだけそれではあなたも共犯者
あなたの「やめて」をまってる
アニメ先生(ペンネーム)(中学校二年生)

だれにでも 笑顔の種が まけるはず
工藤 愛佳(中学校二年生)

さし出す手 その子の未来へ つなぐ力
恒任 つぐみ(中学校三年生)

すてないで あきらめないのが 夢への一歩
島田 ゆな(小学校五年生)

まわりみて 苦しい時やつらい時
だれでもいいよ 相談しよう
林 千裕(小学校六年生)

なやみ事 話してみれば 楽になる
田岡 和恋(小学校六年生)

大丈夫 どんなあなたも 好きだから
山内 彩未(中学校三年生)

あと一歩 声に出さなきゃ 意味がない
野浦 葵(中学校三年生)

友情は 一生続く 宝物
後藤 優亜(中学校一年生)

失敗は 踏み出すための 第一歩
浅野 まりあ(中学校二年生)

あったかい 言葉と行動 わすれずに
石塚 麻子(小学校三年生)

ありがとう 言われてうれしい 言葉だよ
奥谷 柚月(小学校三年生)

勇気持ち 自分の気持ち つたえよう
為永 美紀(小学校四年生)

勇気出し 話しかけよう 自分から
梶野 明彩日(小学校六年生)

辛い時 いつでも言っつてね まっつるよ
原 彩月(中学校一年生)

人権啓発入賞

【300字小説】

第10回

(選考・関係者と他機関の代表による)

580作品より選考

【最優秀賞】

岩崎 百加(小学校六年生)

みきとさえは友達だ。毎日一緒に帰り図書室に行く。ある日、いつものように図書室へ行った。そこでさえは本を破ってしまった。さえはみきに「お願い。私が破ったこと秘密にして。」一えつても、悪いことは言った方が。」「ねえ、友達でしょ。秘密にして。」みきは言葉にまつた。「もういい。」さえは先に帰った。次の日から一緒に帰らなくなり図書室にも行かなくなった。ある日、道徳で先生が「友達は、悪い事を注意でき、それを受け入れられる関係こそが本当の友達だよ。」と言った。授業の後、さえは先生に自分が本を破ったことを謝り、みきの所に来た。「これからも遠慮しないで私に注意して。」「っん。いいよ。だって、さえは私の大事な友達だもん。」



(29年度) 三大ニュース (実績)



年間 学校への支援

- ・人権本巡回制度(9周年)-子ども用(約60冊)(2ルート)
- ・標語(17周年)、300字小説(10周年)の募集
- ・子どもめくもり教室(6周年)
- ・人権しおり(9周年)
- ・(教師)人権講話(3回/年)



(人権本用架台)

9/29 センター初の県外視察団来訪! 「福井県人権擁護委員連絡協議会」様一行

- ・内容
 - ①本センターの活動内容
 - ②人権啓発の考えについて講話
 - ③質疑応答
 - ④人権マンガ展・展示室ご鑑賞等相互交流



8/30 初の「人権マンガ自作・原画展」開催!

- ・パネル数: 約 60 点
- ・開催場所
(第1回) 8月30日
市文化創造センター主劇場・ホワイエ
(第2回) 11月24日から12月10日まで
市図書館本館



(中日新聞 平成29年9月1日)

【優秀賞】

伊藤 大将(中学校三年生)

「毎日がつらい。」
「そう思う日がよくあった。学校で友達もいなく、毎日じめられていた。そのたびに空を見上げていた。あれ？悲しくないの？どうして涙がでるんだらうと自分は思ってた空を見る。だが、空は涙でにじんでよくわからなかった。だが、ある日、僕はいつものようにいじめられていた。すると、一人のクラスメイトがほくを助けてくれた。その人が守ってくれてから、他のクラスメイトのみんなも助けてくれた。「どうして僕を、友達じゃない僕を、助けてくれるの？」と僕は聞いた。すると「なに言ってるんだ、もう仲間だろ。」とみんなは言ってくれた。恥ずかしくなったほくは空を見た。今日はいつも以上に空にじんで見えた。



【優秀賞】

仲里 輝斗(中学校三年生)

『友達』とは一体どうしたらできるのだろうか？僕は、新しいクラスで友達ができずに困っていた。まだ初日とはいえ一人ぐらい友達がほしいものだ。一時限目のチャイムが鳴った。この時間は自己紹介の時間だ。出席番号一番の僕は、一番始めに自己紹介しなくてはならなかった。
「は、はじめましてー！」
「ヤバイ。きんちょうのあまり何度もかんでしまった。自己紹介失敗しちゃったなあ。」
「たかし君、これからよろしくー！」
ペアの子がその声をかけてきた。そうか、友達をつくるのに定義なんてないんだ。嬉しさにほくを赤らめながら僕は言った。
「ごちそうさようしくねー！」



※挿絵は入賞作品をもとに本職員が作成しました。

【入選】

村上 結衣(中学校三年生)

勇気とはどんな事だろうか。私のクラスの人達は「いじめられている子を助けること。」って言っていたけど、本当にそれだけだろうか。私は違うと思う。一人でいる子や悲しそうにしている子に話しかけるのも一つの勇気だと思ふ。そう思ふて私は一人ぼっちで本を読んでいる子に話しかけることにした。
「その本何ていう本？」そう聞くと、
「えっ。」と一瞬ビックリしていたけど、すぐにニコニコと話してくれた。やっぱり勇気を出すっていいな。と改めて思った。次の日の朝教室に入ると「おはよう。」とその子が一番にあいさつをしてくれられた。その時私は思った。よし。これからも勇気を出そう。

【入選】

下平 峻大(小学校六年生)

庭のはじつこに静かにさいているタンポポ。その先にはきれいなゆりの花がさいている。
「あのきれいなゆりのような花になりましたかった。」
たんぽぽがつぶやいた。
「たんぽぽなんてそこらへんにさいている雑草じゃん。ゆりはきれいで目立っていいなあ。たんぽぽに生まれたくなかった。」
そこにハチが飛んできて言った。
「たんぽぽもいいところがあるよ。小さくてかわいらしいし、それにわた毛がきれいじゃない？」
「そうか。私にもいいところがあるんだ。」
タンポポは、自分がタンポポだということにはほこりをもった。周りの草花は笑っていた。

【入選】

金平糖(ペンネーム)(小学校六年生)

私は、医者になるのが夢だ。母に小さいころ「私お医者さんになるー！」と言つて母は「がんばってね」と言ってくれた。だが小学一年生の時、母と父がりんしん、私は母に、ついていった。母は母子家庭でお金がないのにもかかわらず、千円以上する人体や医者の本を買ってくれました。でも、最近仕事が、いそがしく私と会う時間がなく、そんな毎日が私はいやでした。ある日、母がおなかをおさえてたおれていた。きゅっきゅつ車をよんで、医者は安心させるような笑顔で「大丈夫ですよ。腸の軽い病気です」と言つた。母は、そのあと私に「あんたも、あんまりつぱ医者になるのよ。」その言葉は私の心に残つており言葉のぬくもりを感じ、再び決意した。医者になると。

【入選】

玉野 真衣(中学校三年生)

「ヒーローになりたい。」これが小さい頃の僕の夢だった。強い武器を持つて、たくさんの人を助ける姿がかっこよくて憧れだった。
でも、中学生になった今は、ヒーローなんて信じない、どうせ誰も見ていないのに、人助けするなんてめんどくさいと思ふようになっていた。そんなある日、公園で泣いている男の子を見つけた。いつもなら気づかないふりをするけど、その子が心配になって声をかけることにした。聞くと、転んでケガをしたらしい。傷を洗って消毒をしている時、男の子が「お兄ちゃんヒーローだね！」と笑つた。その言葉でハッと気づいた。誰も見ていなくても、困っている人に勇気を出して声をかけられる者こそ、本当のヒーローなのだ。

懸命に生きる猫のはなし

心のドア
まご
〜真のことは?〜



[取材記事です]

★近所の70歳過ぎの方が、20代の頃の話をしてくれました。
★横浜の、まだ田畑が多く残る所の、洋風の安価な貸屋での出来事です。玄関は一つで、いつも冬以外は開けっ放しであった。ここには、大学生や会社員等が5所帯入っていた。
★その中に、八百屋さんに勤めていた中年の夫婦がいました。子どもはおらず、いるのは雌猫一匹であった。この猫の話である。
★ある時、この雌猫が子どもを3匹産み、連れてきたのに夫婦はビックリしました。にやにやと鳴く子猫はかわいいもの、廊下を走り回ってもだれも文句は言わなかった。残りもの魚などを上げる人もいたらしい。こんなのかな風景を一変させる事件が起こった。
★夏の夜、突然犬の鳴き声と共に惨事は起きた。野犬2匹が玄関にいた猫の親子を襲ったのだ。親猫は、子どもを助けるためこの犬に命を懸けて挑んだ。犬は親猫に噛みつき、とうとう親猫は死んでしまった。
★残った子猫は、それから牛乳を与えられて何とか生き延びた。数か月がたち少し大きくなつてくると、3匹も飼うことができないため、だれかに貰ってもらおうと張り紙をしたが、1ヶ月経っても貰いに来る人はいなかった。そこで夫婦は、元気な子猫1匹を残して2匹を捨てる決心をした。
★ある日、牛乳を普段より多く飲ませて、2匹を車に積み、遠くの野原に捨ててきた。
★夫婦は、それから捨てた罪悪感にさいなまれた。
★奇跡はその時から始まったのだ。ある秋の夜のこと、ニヤンと鳴く声に目を覚ました夫婦は飛び起きた。戸をあけてビックリ、そこにいたのは、あの時捨てた2匹の内の一匹の雌猫であった。毛はきたなく汚れ、爪は血がにじんでいた。
★夫婦はあわててお湯を沸かし、体を洗い、傷口に赤チンを塗り、血止めした。もともといくす猫とも仲良くし元気になるにつれて。
★この2匹を可愛がってから、この夫婦に大いなる福運が舞い降りた。力を合わせ懸命に働いたとはいえず、今では八百屋として独立し繁盛した。また立派な家まで建てた。間もなく猫2匹とも死んでしまったが、その猫が産んだ雌猫が今は元気であるという。
★生きる事は、人間の世界でも同じ辛さ苦さはあるが、猫のように負けずに生きることを、この夫婦は教えられた。いつとも会う度にこの話をすると

まゆちゃん 26

(なかよく分け合いっこしよう)
作: 多々 / 画: miho



(本作品は、全て本職員でつくられています)

心の響き 可児ぬくもりネットだより

今週のビタミンから

日本の心の源は

今週のビタミン

発信日: (2017年11月17日) 発信編

● 誰もが、幾つになっても自分の生まれ故郷を大事にする。ここに生まれ出るは、自分の意思などないが、ここに生まれたという事実は、宿縁的なもの。また自身の存在の事実は、父母とのお蔭である。そこで育まれ、この地で多くのはじめの事を学ばゆえに、その人の基点であり、そこから自分の刻みが始まる。
● 生まれ出た家、郷土には、昔からの積みも積もった歴史や伝統がある。そこに住んだ人の生き様による結晶が総和の文化として生きている。
● 明治の民俗学者の柳田国男は、その地に伝わる独特の地方民俗を調査した。それは、そこに潜む日本人の考えの元を希求したのだった。当時の地理学者の牧口常三郎や、内村鑑三の西洋での郷土論に影響を受けた新渡戸稲造等何人か「郷土会」を結成。
● 地に寝る日本人の魂を研究し民俗学としたのである。柳田は「遠

● 野物語」を、新渡戸は「武士道」、牧口は「人生地理学」等を著し、その地に内在している人の心の関係を解き明かしている。
● こうした人は、昔のルーツを掘り下げ、何百年前からこの地に住む人が、いかに知恵を使い物事を為してきたかを調査することで郷土を愛し、日本を愛し、しいては、他国も同じであると思つたのだろう。すべてが、染み込む郷土を持ち、共に平安に生きる人としての生き末(すえ)を、明治から昭和初期にかけての偉人は善に残している。今に生きる上で大切なヒントとなる。又、人間の究極の故郷はアフリカのケニアの草原と学者はいう。
● 故に人間は皆兄弟であり、縁ある奇しき関係にあるから「セクト主義」に陥らないことこそ、今の世相での大事なこと。粹がなくても何が得ずるであろうか。故郷は、いかに生きるかの多くの処世術をはらんでいるのである。

★他人の長所は言わないが、短所は探しても言っていない方が、心豊かな生活を送りたいものです。
(T・M)
★人権啓発って何? よく分からないまま取り組んできました。が、やっと自分も少しは貢献できてこののかなと感じるこの頃です。日々勉強!
★「人権マンガ」を「Y・K」と二人で作りは、はや9年目です。「住み易い人権のまち可児」が広く浸透するよう、今後もよりよい絵を描いていきたいです。
(M・H)
★「生きとし生けるもの」すべてが、無常で移ろいの中にあります。社会も、人の顔形・考え・行動・声・言葉づかい等もすべて違っています。一つとして同じことはなく、全てに同じに与えられた時間の中で変化しています。春はこつしたものの開花する時です。互いに助け合いながら、仲よく生きることを教えてくれます。
(編集(責):川手)